

## 医療史料の保存と活用

酒井シヅ

二十世紀、とりわけ後半の医学の発展は医療そのものの性格を変えてしまった。医療はもともと医師と患者の関係から始まったが、現代の病院は医療が複雑になり、医療機器は大型化している。そのために病院では国家免許を必要とする二十以上の医療職によるチーム医療が行われている。それとともに診療科ごとに特殊な機器が用いられ、医療機器の種類は驚くほど増えている。

こうして先端医療の現場ではつぎつぎと替わる最新の医療機器に対応して、治療技術の向上に精力的に取り組んでいる。確かに、そのお陰で診断は正確になり、治療成績は大幅に向上した。

だからといって、過去の医療機器をまったく省みなくて良いのだろうか。医療機器の発展した過程を知ることが、まったく意味のないことだろうか。

歴史を知ることが、現代を知るためにも、また将来を考えていくためにも重要なことは心ある人はすべて肯定する。資料保存も重要だという。われわれは長い間、医療史料の保存を訴えてきた。それは懐古趣味からではない。また、すでに歴史的な価値を認められている物だけを残そうとしているのではない。現在保存出来るものは出来るだけ多く残そうとしている。そうすることによって、将来、本当に価値ある資料が次の世代に受け渡されるからである。

また、とくに器物の資料保存を強く訴えるのは、これまでのように多くは文献に頼ってきた歴史とともに、器物史料を調査研究することで、文献では読みとれない多くのことを学ぶことができるからである。

歴史観も、価値観も時代によって変化することは、いやというほど経験してきた。器物は文字以上に多くのことを語り、それを読みとる力も時と共に変化する。それだけにこうした史料をできるだけたくさん残したいと願っている。

かつて全国の医学史料がどのような状態になっていたのか調査を行い、報告書を造った。

その結果、医学資料館を造ろうとする人はいつの時代にもいた。しかし、調査結果は創立者の意図を後の世代に継承することがいかに難しいことであるかを語っていた。いくつもの資料館が経営の危機から消えていった。また、現存しているでも継続の危機にあるものもある。ここでは資料館の本来の目的である展観が行われていない。

そこで恒常的に医学資料館を造るにはどのようなしたら良いか、これまでもいろいろな所に働きかけてきたが、色好い回答が得られなかった。しかし、いまこそ実効ある行動を興したい。そのために皆が知恵を出し合うときがきていると思う。